

平成 2 8 年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立豊新小学校

1 学校教育目標

◇豊かな心をもち、めあてをもって、意欲的に学ぶ子どもを育てる

- ・たくましい身体になる子ども
- ・ゆたかな心をもつ子ども
- ・よく考える子ども

2 学校運営の中期目標（平成 25 年度から平成 28 年度の 4 ケ年）

現状と課題

児童は全般的に素直で明るく、元気よくあいさつができています。また、学習にもまじめに取り組んでおり、特に体験的な学習を好んでいる。また、学校行事、委員会活動やクラブ活動にも積極的に取り組んでいる。しかしながら、全国学力学習状況調査の結果では、国語 A・B、算数 A・B 全てにおいて全国平均正答率を下回っており、また、一部児童に学習規律をきちんと守れないなど、問題行動も見られる。地域・保護者は学校の教育活動に好意的で、多大なる支援・協力を得ることができる。

そこで、基礎・基本的な知識や技能の確実な定着を目指し、反復学習や体験的な学習、協働的な学習を多く取り入れるなど、教科指導法の工夫が必要である。さらに、学校図書館や地域ボランティアを効果的に活用した読書活動の推進、国語科を中心とした全ての教科において言語活動を多く取り入れた授業の展開、児童が自己肯定感や自尊感情が高められるような取組の充実が課題と考える。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 大阪市小学校学力経年調査において正答率 6 割を超える児童の割合を 70%以上にするるとともに、学校アンケートにおける「授業の内容はよく理解できますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。

※「しんだん」が取り止めのために変更（カリキュラム改革関連）

- 言語力や論理的思考能力の育成のため、重点教科で 6 年間を見通した言語活動の充実を図る実践的な指導計画を作成する。（カリキュラム改革関連）
- 英語教育の強化を図るため、年度ごとに順次指導学年を拡大する。（グローバル化改革関連）
- ICT を効果的に活用した授業の充実を図る。（グローバル化改革関連）
- 授業研究を伴う校内研修の充実を図る。（マネジメント改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。（カリキュラム改革関連）

○自他ともに認めあい、思いやりのある児童を育成するとともに、心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）を実施する。

（カリキュラム改革関連）

○避難訓練（防災教育）を毎学期に実施し、また高学年においては安全（防犯）教育も実施する。

（グローバル化改革関連）

○教師力の向上に向けた研修ならびに研究の推進をする。

（マネジメント改革関連）

○産業界との連携と学習資源の有効活用をする。

（学校サポート改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、毎年、前年度と比べて3種目以上上回る。

（カリキュラム改革関連）

○学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。

（カリキュラム改革関連）

○学校アンケートによる「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

（カリキュラム改革関連）

○学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。

（カリキュラム改革関連）

○安全、安心、良好な教育環境の確保を図る。

（マネジメント改革関連）

【視点 特別支援教育の充実】

○障がいのある全ての子どもに対して「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、個別の指導計画に基づき指導する。

（カリキュラム改革関連）

○障がいのある子と通常学級の子どもの協働に成長する教育を推進する。

（カリキュラム改革関連）

3 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 大阪市小学校学力経年調査において正答率6割を超える児童の割合を70%以上にするるとともに、学校アンケートにおける「授業の内容はよく理解できますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 2年間の研究の成果と課題を検証するとともに、国語科を含めて、多くの教科において言語活動の充実を図る授業づくりを進める。
(カリキュラム改革関連)
- 英語教育の強化を図るため、全学年でのモジュール学習を実施する。
(グローバル化改革関連)
- ICTの効果的な活用方法ならびに指導方法の研究を行い、授業実践事例を蓄積する。
(グローバル化改革関連)
- 全教員が一人1回以上の授業研究を行うとともに、年間6回の全体研修会を実施する。
(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 自他ともに認めあい、思いやりのある児童を育成するために、ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、子どものストレスマネジメント教育事業、子どもの情報教育事業を実施する。
(カリキュラム改革関連)
- 心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事を実施する。
(カリキュラム改革関連)
- 避難訓練を毎学期に実施するとともに、区や地域と連携した防災教育を実施する。
(グローバル化改革関連)
- 個別の課題への対応に関する研修を実施する。
(マネジメント改革関連)
- 産業界等と連携し、ゲストティーチャーを招いての職業講話を5・6年に実施する。
(学校サポート改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 全国体力・運動能力、運動週間等調査において、春と秋と比べて3種目以上上回る。
(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気を付けている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 毎月1回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し全体で共有化するとともに、早期に改善を行う。
(マネジメント改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

○障害のある全ての子どもの「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、学期ごとに見直しを加えながら、個別の指導計画に基づき指導する。

(カリキュラム改革関連)

○障がいのある子と通常学級の子どもの交流および共同学習を推進する。

(カリキュラム改革関連)

4 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

- ・言語活動を意識した授業づくりが進められるように、授業研究、研修会、教材開発などを行ってきたので、どの教科においても児童の能力は向上している。大阪市小学校学力経年調査の結果を分析して児童の実態を把握し、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるため、学習指導法の工夫・改善を行っていく。
- ・ICTを活用した授業、英語モジュール学習など、新しい学習形態を取り入れることもできた。次年度は、深化充実を図るために、さらに指導法の工夫や教材研究を行っていく。

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・道徳の授業をはじめ、様々な学習活動を通して、命や人権の尊さについての指導が続けてきたが、指標のアンケートでは、目標数値をわずかに下回った。人権に関する指導内容の充実を図り、子どもたちの心に響く指導法を工夫していく。
- ・日々の生活指導により、学校のきまりを守ろうとしている児童は多いが、十分に規律が守られているとは言い切れないため、今後も全教職員がきめ細やかな指導を徹底していく。さらに、問題行動およびいじめを許さない集団の育成に取り組み、関係諸機関とも連携しながら早期解決に努めていく。
- ・学期ごとの避難訓練に加え、地域と連携した防災訓練も実施し、マニュアルに沿って避難できるようになっている。

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・体育の授業やなわとび週間やかけあし週間などで、児童の敏捷性や持久力、跳躍力の向上に努めたが、運動能力テストでは、1つの種目で指標の目標を下回った。次年度は、めあてを持ち、達成感を味わえるような授業の工夫や様々な取り組みを通じて、児童の意欲・意識をさらに高め、運動好きな児童を増やし、体力向上を目指していく。
- ・手洗い強調週間は、工事の関係で手洗い場が少なかったにもかかわらず、児童の健康意識を高め、取り組むことができた。また、給食週間や栄養指導を通して食への関心が高まり、感謝の気持ちが高まっている。

【視点 特別支援教育の充実】

- ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、支援を必要とする子どもについて共通理解を図り、全教職員、支援員による見通しを持った指導・支援を行うことができた。
- ・人権教育の年間計画に基づき、多様性を尊重する活動や実践を行った。指標のアンケートでは、目標の数値を大きく上回る結果となった。

大阪市立豊新小学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ○大阪市小学校学力経年調査において正答率 6 割を超える児童の割合を 70%以上にするとともに、学校アンケートにおける「授業の内容はよく理解できますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ○2年間の研究の成果と課題を検証するとともに、国語科を含めて、多くの教科において言語活動の充実を図る授業づくりを進める。 （カリキュラム改革関連） ○英語教育の強化を図るため、全学年でのモジュール学習を実施する。 （グローバル化改革関連） ○I C Tの効果的な活用方法ならびに指導方法の研究を行い、授業実践事例を蓄積する。 （グローバル化改革関連） ○全教員が一人 1 回以上の授業研究を行うとともに、年間 6 回の全体研修会を実施する。 （マネジメント改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	達成状況
取組内容①【区分 個に応じた学習指導】 個別指導やグループ指導、繰り返し指導、習熟度別指導を計画し、基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 大阪市小学校学力経年調査において正答率 6 割を超える児童の割合を 70%以上にするとともに、学校アンケートにおける「授業の内容はよく理解できますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。	
取組内容②【区分 言語活動の充実】 2年間の研究を基礎とし、多くの教科で言語活動の充実を図る授業づくりの研究を行う。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 年度末にまとめる研究の検証	
取組内容③【区分 外国語活動】 英語教育の深化充実を図るため、モジュール学習の教員研修を充実させる。 （グローバル化改革関連）	B
指標 3 学期より全学年でのモジュール学習を実施する。	
取組内容④【区分 I C Tを活用した教育の推進】 I C Tの効果的な活用方法について指導方法の研究を行い、授業実践例を蓄積していく。 （グローバル化改革関連）	B
指標 モデル校の公開授業に参加したり、校内における実践事例を増やすなど、校内での情報共有を積極的に行う。	
取組内容⑤【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。 （マネジメント関連改革）	A
指標 全教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、年間 6 回の全体研修会を行う。	

【視点 学力の向上】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①大阪市小学校学力経年調査において、正答率6割を超える児童の割合は全校平均で70%を上回っているが、一部の学年において下回っている教科もある。学校アンケートにおける「授業の内容はよく理解できますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は89%（中間評価91%）で、目標の数値（90%）を下回ってはいるが、児童は授業の基礎的・基本的な内容は定着してきている。</p> <p>②言語活動を意識した授業づくりが進められるように、授業研究、研修会、教材開発などを行ってきたので、どの教科においても児童の能力は向上してきた。</p> <p>③3学期より全学年での英語モジュール学習を実施できたが、充実とまではいかなかった。</p> <p>④ICT機器の操作や効果的な活用法についての研修を行ったり、モデル校の公開授業に参加したりすることで、ICTへの意識は高まってきた。また、授業への活用を行っているクラスが増えてきた。</p> <p>⑤実施計画に基づいて計画的に研究授業及び研修会を実施している。また、年6回以上の全体研修を行った。（研究教科 国語科3回、英語モジュール2回、ICT3回、道徳1回）</p>
次年度への改善点
<p>①大阪市小学校学力経年調査の結果を分析するなどして、児童の実態を把握し、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに、個に応じた指導を行う。</p> <p>②年度末にまとめる紀要をもとに、言語活動の充実を図る授業づくりの研究を推進するとともに、教材開発を進めていく。</p> <p>③英語教育の深化充実を図るために、指導法の工夫や教材研究を行い、全学年での英語モジュール学習を定着させる。</p> <p>④今まで蓄積してきたICTの効果的な活用方法や指導方法をもとにして、全ての教員が授業で活用できるように情報を共有化するとともに、継続して研究を深めていく。</p> <p>⑤本校児童の実態に応じた指導方法を充実させるために、引き続き授業力向上に向け、校内研修を充実させていく。</p>

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ○学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ○学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ○自他ともに認めあい、思いやりのある児童を育成するために、ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、子どものストレスマネジメント教育事業、子どもの情報教育事業を実施する。 （カリキュラム改革関連） ○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事を実施する。 （カリキュラム改革関連） ○避難訓練を毎学期に実施するとともに、区や地域と連携した防災教育を実施する。 （グローバル化改革関連） ○個別の課題への対応に関する研修を実施する。 （マネジメント改革関連） ○産業界等と連携し、ゲストティーチャーを招いての職業講話を 5・6 年に実施する。 （学校サポート改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【区分 道徳教育と人権教育の推進】 道徳の授業の年間標準授業時間を確保するとともに、人権に関する指導内容の充実を図る。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 学校アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。	
取組内容②【区分 規範意識の育成】 社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 学校アンケートにおける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。	
取組内容③【区分 自尊感情と思いやりの心】 ゲストティーチャー派遣事業により、「いのちと性」の教育事業、「子どものストレスマネジメント」の教育事業、「子どもの情報教育」の事業を実施し、自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を育成する。 （カリキュラム改革関連）	A
指標 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 70%以上にするるとともに、6 年生を対象に「いのちと性」の教育事業、「子どもの情報教育」の事業、5 年生を対象に「子どものストレスマネジメント」の教育事業、を各 1 回ずつ実施する。	
取組内容④【区分 心豊かな子どもの育成】 芸術鑑賞行事を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 年間計画に従い、演劇鑑賞行事を実施する。	

取組内容⑤【区分 防災教育の推進】 災害・防災についての正しい知識と的確な判断力を身につけ、非常時には正しい判断 力を持って適切に行動できるように指導する。(グローバル化改革関連)	B
指標 各種の想定に対応した避難訓練を毎学期に実施するとともに、区や地域と連携した 防災教育を実施する。	
取組内容⑥【区分 問題行動への対応】 日頃より問題行動およびいじめを許さない集団の育成に取り組むとともに、事案発生 時には、関係諸機関とも連携しながら早期解決に努める。(マネジメント改革関連)	B
指標 校内ケース会議をもち、個別の課題への対応に関する研修会を実施する。	
取組内容⑦【区分 キャリア教育の推進】 児童の発達段階に合わせ、系統立てたキャリア教育を実施する。(学校サポート改革関連)	B
指標 産業界等と連携し、ゲストティーチャーを招いての職業講話を5・6年生におい て実施する。	

【視点 道徳心・社会性の育成】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 道徳の授業をはじめ、総合的な学習の時間や生活科の学習を通して、命や人権の尊さにつ いての指導を続けてきた。学校アンケートの「命や人権の尊さについて考えたことがある」 の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は、 89%（中間評価 91%）で、目標の数値（90%）を下回った。</p> <p>② 日々の生活指導により、学校のきまりを守ろうとしている児童は多い。学校アンケートに おける「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において、「あてはまる （どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は 91%（中間評価 95%）で、目 標の数値（85%）を上回った。</p> <p>③ ゲストティーチャー派遣事業による各種特別授業を計画通りに行ってきた。また、その対 象になっていない学年でも、道徳をはじめ日々の教育活動を通して自尊感情を高める指導 を行ってきている。その結果、自分の大切さを感じている児童は多い。学校アンケートにお ける「自分には良いところがあると思いますか」の項目において、「あてはまる（どちらか といえば、あてはまる）」と答える児童の割合は、83%（中間評価 82%）で、目標の数値（70%） を大きく上回った。</p> <p>④ 計画通りに演劇を鑑賞し、表現を楽しむとともに内容を味わうことができた。</p> <p>⑤ 校内の避難訓練に加え地域と連携した防災訓練も実施し、マニュアルに沿って避難でき るようになっている。さらに、本市に爆破予告があった際にもスムーズに行動できた。</p> <p>⑥ 子どもどうしの事象や家庭の課題について、教職員間で共通理解し臨機応変に対応してき た。また、それぞれの事案から、何が課題なのか分析もしてきた。課題の大きな事案につ いては教職員全体に報告し、現状を共通認識できた。</p> <p>⑦ 外部の機関と連携し、さまざまな内容の取り組みを行うことができた。キャリア教育につ いては保護者にも公開し、子どもたちの経験を広げることができた。</p>
次年度への改善点
<p>① 今後も、人権に関する指導内容の充実を図り、子どもたちの心に響く指導法を工夫する。</p> <p>② 児童アンケート結果は目標を上回り目立った事案もなくなってきたが、十分に規律が守ら れているとは言い切れない。全教職員が共通したきめ細やかな指導を徹底する。</p> <p>③ 自分や他者の価値を尊重し、相手を思いやる心を育成する取り組みを継続して、特に自尊感情 の低い児童へのはたらきかけに努める。</p> <p>④ 今後も計画的に多様な芸術鑑賞行事を実施し、心豊かな子どもの育成を図っていく。</p>

- ⑤ 今後も非常時に備えた取り組みを実施するとともに、外部からの不審者に対する対応や、大雨に伴う洪水に関する訓練を行う。
- ⑥ 課題の解決に向けて、教職員をはじめいろいろな関係諸機関とも協力しながらはたらきかけを続けているが、なかなか解決までは至らないのが現状である。今後も粘り強く取り組みを続け、状況の改善を図る。
- ⑦ 児童の実態に応じたキャリア教育を実施できるよう、次年度はより多くのゲストティーチャーを招く。

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、昨年度の全国及び市の結果と比較し、本校児童が弱いとされる種目で体力増進を図り、秋の調査結果が春の調査結果より上回る。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○学校アンケートによる「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○毎月 1 回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し全体で共有化するとともに、早期に改善を行う。 (マネジメント改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【区分 体力向上への支援】</p> <p>体育の授業において、敏捷性や持久力、跳躍力のアップを目指す取り組みをする。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、昨年度の全国及び市の結果と比較し、本校児童が弱いとされる種目で体力増進を図り、秋の調査結果が春の調査結果より上回る。</p>	
<p>取組内容②【区分 体育科授業の充実】</p> <p>運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら取り組めるような授業づくりを工夫する。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>保健指導や手洗い・うがい強調週間等を通して、児童が手洗いの習慣を身につけられるよう指導する。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【区分 食育】</p> <p>給食週間や栄養指導を通して、食への関心を高める指導を実施する。 (カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 学校アンケートにおける「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。 また、給食日誌における残食率の平均を 5%以下にする。</p>	

取組内容⑤【区分 教育環境の整備】 安全な学習環境の整備に向けて日頃より全教職員で取り組む。 (マネジメント改革関連)	B
指標 安全点検票を見直すとともに、毎月1回安全点検日を設け、修理・補修の必要な個所の実態を把握し、早期に改善を行う。	

【視点 健康・体力の保持増進】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、反復横跳び（春 31.6 冬 34.6）、立ち幅跳び（春 134.5 冬 145.5）は、秋の調査結果が春の調査結果より上回ったが、シャトルラン（春 39.2 冬 36.4）は下回った。</p> <p>②なわとび週間やかけあし週間を設け、体を動かす楽しさを知ったことで児童の意欲・意識が高まり成果につながった。学校アンケートにおける「運動することが好き」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は85%（中間評価88%）で、目標の数値（80%）を上回った。</p> <p>③手洗い強調週間は、工事の関係で手洗い場が少なかったにもかかわらず、児童の意識を高め取り組むことができた。学校アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は91%（中間評価90%）で、目標の数値（90%）を上回った。</p> <p>④給食週間や栄養指導を通して食への関心が高まっている。学校アンケートにおける「給食を残さず食べている」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は92%で、目標の数値（85%）を上回った。残食率も1.2%で目標の数値（5%）を大きく下回っており、食べ物に対しての感謝の気持ちを持つことができています。</p> <p>⑤改定した安全点検票を用いて、学習環境を安全に保ってきた。修理・補修も管理作業員を中心に迅速、的確に対応できていた。</p>
次年度への改善点
<p>①すべての種目で向上できるよう、体力向上に向けた日々の取り組みを行う。体力向上で秋に調査すべきところが冬の実施になったので、次年度は運動に適した時期や児童の意欲を高められるような支援を行う。</p> <p>②児童が楽しみながら取り組める、なわとび週間・かけあし週間を継続するとともに、日頃より運動やスポーツに興味・関心が高まるような授業づくりを工夫する。</p> <p>③手洗い強調週間等の行事を継続し、より児童が意欲を持って取り組めるように指導していく。</p> <p>④食への感謝のできる子を目指し、「食育だより」などで保護者にも啓発していく。</p> <p>⑤安全な学習環境の整備を常に心がけ、全教職員で取り組んでいく。</p>

給食 残食率（％） 4月9日～2月7日

	主菜	副菜	果物・デザート	米飯	パン	牛乳
平均	0.4	0.8	0.4	1.4	3.4	1.8

総平均	1.2
-----	-----

年度目標	達成状況
【視点 特別支援教育の充実】 ○障害のある全ての子どもの「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、学期ごとに見直しを加えながら、個別の指導計画に基づき指導する。 (カリキュラム改革関連) ○障がいのある子と通常学級の子どもの交流および共同学習を推進する。 (カリキュラム改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	達成状況
取組内容①【区分 特別支援教育の充実】 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、一人一人のニーズに応じて見直しを学期ごとに行う。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた指導を行う。	
取組内容②【区分 特別支援教育の充実】 支援を必要とする子どもについて全教職員で共通理解を図る。 (マネジメント改革関連)	B
指標 特別支援教育に関する研修会を学期に1回実施する。	
取組内容③【区分 特別支援教育の充実】 教育活動全体を通じて、多様性を尊重する活動や実践を学期に1回行う。 (カリキュラム改革関連)	A
指標 学校アンケートにおける「友だちにはみんなよいところがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。	

【視点 特別支援教育の充実】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、見直しを持った指導・支援を行うことができた。 ②支援を必要とする子どもについて、共通理解を図り、全教職員、支援員の先生によるサポートを実施することで、通常学級での学習にも、ともに参加できてきた。1学期は「支援を要する子どもについての共通理解と合理的配慮」、2学期は「就学時健康診断と配慮を要する就学児について」、3学期は「配慮を要する就学児とてんかんについて」の研修会を実施した。 ③人権教育の年間計画に基づき、多様性を尊重する活動や実践が行われた。学校アンケートにおける「友だちにはみんなよいところがある」の項目において、「あてはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は96%で、目標の数値（85%）を大きく上回った。
次年度への改善点
①「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の見直しを今後も続け、個に応じた支援を続けていく。サポーターや支援員等、手厚い支援がさらに望まれる。 ②児童一人一人の実態を全教職員が共通理解し、より良い支援を行えるように定期的に研修会を実施する。次年度に向けて、スムーズな引継ぎを行うため資料を活用する。 ③今後も多様性を尊重する活動や実践を全教育活動において行っていく。